

第1 本講座について

1 講師自己紹介

瀬戸宗一郎

慶應義塾大学 2015 年卒業

H25 年度予備試験合格, H26 年度司法試験合格 (いずれも最年少)

2 本講座の趣旨・コンセプト

効率的に合格答案を作成する方法を学んでもらう

不合格答案になってしまう理由はいくつかある

パターン①

問題に対するそもそもの姿勢が間違っている

論点抽出→論証吐き出し→あてはめ, という一連の流れができない

法理論のところで躓いているパターン

パターン②

事実分析ができない, また, 事実と理論の間のバランスを取れない

例: 事案を無視して, 自分の知っている論証を吐き出す

問題の特殊性を考慮せずに理論を展開する

事実ベースといいつつ, 事実のみを論じ, 感想文のようになる

→俗にいう「筋が悪い」状態

パターン③答案作成戦術, テクニック不足

問題文の読み方, 答案構成時間の使い方, 答案構成の方法など

①→問題の解き方の総論部分

③→実際の答練や本試験でどう問題に対処するかという方法論, 技術論

⇒私がやってきた方法を一例としてお教えする

②これは問題…「筋のいい状態」を教えることは非常に難しい

そもそもこれは, 知識や問題演習を重ねていくうちに身についていくもの

身につける助けとして, 過去問を通して私の事実分析の一例や, どういうところに着目するかを示す

⇒答案作成方法の全般について, 私が頭の中で考えることを全て文字・言葉にしてお伝えする講義

第2 問題の解き方

1 刑事系問題に共通する解き方

(1) 例題

【旧司法試験 平成6年第1問】

甲は、対立抗争中の暴力団の組員に襲われた場合に備えて、護身用に登山ナイフを身に付けていたところ、ある日、薄暗い夜道を帰宅途中、乙が、いきなり背後から前に回りこんできて、右手を振り上げて立ちふさがったので、組員が殴りかかってくるものと思い込んで危険を感じるとともに逆上し、殺意を持って登山ナイフで乙の腹部を一回突き刺し、全治3ヶ月の傷害を負わせた。なお、乙は、甲を友人の丙と勘違いし、丙を驚かせるつもりで甲の前に立ちふさがったものである。甲について、殺人未遂罪の成否を論ぜよ。

基本的な問題、論点→論点抽出等、問題に対するそもそもの姿勢を学ぶ

ポイント

・論点抽出のみで問題が解けたことになる？→理由づけ、規範、あてはめなし

⇒なる、なぜなら

①理由づけ、規範はすでに論証集で暗記済み、それを貼りつけられればいいだけ

前提として論証の完璧な暗記が必要

②あてはめ→答案構成する必要はない

あてはめで評価されるのは、事実の数とそれぞれの評価

評価の巧拙はほぼ採点対象ではない、とにかく事実の数を稼ぐのみ

そして問題文に事実は書いてある→これに＋とか－とか書けばいい

⇒（刑事系）問題を解くとは、すなわち論点抽出をすること（これのみ）

(2) 解き方は数学と同じ

どの公式を使うか（論点抽出）→公式（論証）の貼りつけ→数字（事実）の適用→結論

公式はすでに暗記している、数字は問題に書いてある、つまりやることは公式の選定のみ

・現場で考えることを極力少なくする

基本的な問題を解いて、論点抽出自体も一瞬でできるように

事前の暗記によって現場思考の時間が増える